

1467	応仁1. 5.	応仁文明の乱起こる
	6	房定、善照寺に制札を与える[[5]2385]
	7.27	刈羽郡善照寺の増珍、寺領等について置文を作る[[5]2386]
	7	坊金城主石田氏、頸城郡顕聖寺を再興する[越佐史料3]
1468	応仁2.12.13	発智景儀、恩地を子息万歳丸に譲る[越佐史料3]
1469	文明1. 2.23	専称寺界阿、鹿島社に鎮守田等を寄進する[[4]2262]
1470	文明2. 5.18	弥彦神社の御頭役を記録する[[5]2879]
	12.29	房定、古志長尾氏の当知行を安堵する[[3]169]
1471	文明3. 2.22	弥彦神社の神条式を定める[[5]2792]
	3	房定、関東に出陣し、ついで越後に帰る(②228)
	4. 5	寺尾長祐、刈羽郡善照寺に寺屋敷を寄進する[[5]2393]
	5	佐橋荘の毛利(安田)房朝、房定にそむく。房定、房朝の甥重広にこれを討たせる(②228)
	8	新保盛秀、大崎保の八幡宮に鰐口を納める[[5]2657]
	12.27	房定、安田重広に一族房朝を討たせ、忠賞を与える(②228・247)
1472	文明4. 9.17	黒川氏実の家中落合氏、所領支配をめぐる争う。氏実、文書紛失を守護に届け、知行安堵を受ける[[4]1383]
1473	文明5. 6.27	房定、発智・江口氏らに関東出陣の準備を命じる[[4]1622]
	10. 7	長尾房景、浦佐普光寺に法事励行を命じる[[5]2594]
	11	小河荘の山内通信、五十島若宮八幡宮に大夫屋敷を寄進する[越佐史料3]
	12.18	房定、魚沼郡吉谷十八社のうち三社の諸役を免除する[[5]2444]
1474	文明6. 8.18	色部朝長、一族飯岡氏と寺庵領を争い、守護に訴える(②287)
1475	文明7. 6.18	長尾房景、浦佐普光寺の別当職を安堵する[[5]2595]
1477	文明9.12.27	房定、安田重広に小国保を与える(②247)
		◇村上耕雲寺六世太菴(守)梵守、華報寺を復興する(②495)
1478	文明10. 3.28	京都随心院の厳宝、所領白鳥荘に下る[越佐史料3]
	3	飯尾宗祇、京都から越後に向かう[越佐史料3]
	12.18	善照寺の増珍、寺領の段銭等の注文を作る[[5]2397]
	12.2	佐渡の殿内彦五郎、東光寺に鰐口を奉納する[[5]3168]
	12.3	房定、安田重広と不退寺の山論を裁可する[[4]1550]
1479	文明11. 5. 3	房定、本成寺の学頭職・末寺支配を安堵する[[5]2673]
	11.24	黒川氏実、所領を子息頼実に譲り、置文を作る(②288)
	11	房定、関東に出陣して管領顕定を助ける[越佐史料3]
1480	文明12. 7.13	黒川氏実、頼実に家中の統治について置文を与える(②288)
	10. 5	黒川氏実、家中から誓約書をとる(②288)
	11.27	房定、足利成氏と幕府の和睦斡旋をはかる(②230)
	12.18	中条朝資と黒川氏実、所領の境界を争う(②291)
1481	文明13. 5.24	房定、弥彦神社修造のため棟別銭を賦課する[[4]1843]
1482	文明14. 2.25	越後守護代長尾重景死去。能景嗣ぐ(②240)
1483	文明15.12.13	色部朝長、家督を曾孫松鶴丸に譲る(②287)
		◇古志郡内の検地帳を作成する[[3]777]
1485	文明17. 2. 9	上田荘木六郷長慶庵領年貢取帳を作成する[[5]2551]
	4.16	小国重頼、種月寺に聖經を寄進する[越佐史料3]
	春	房定、足利義政の寿像を画かせ、至徳寺の章岳を京に送り相国寺横川景三の讃を求める(②233)
1486	文明18. 3.10	房定、従四位下相模守となる(②232)
	5.26	幕府、房定に対し青苧本座以外の商人による青苧売買を禁止するよう命じる(②392)
	6.13	常光院堯恵、越後府中を再訪する。その後柏崎から上野国へ向かう(②234・351・379)
	7. 8	黒川氏実死後、黒川・中条両氏が境界を争う[[4]1923～1928]
	7.15	聖護院道興、京都から越後国府に着く(②234・379)
	8. 4	足利義政、越後安国寺のため大蔵経を朝鮮国王に求める(②234)
	8.21	刈羽郡原の普光寺に寺領施入される[[4]2314]

		◇房定, 足利義尚に「越後布三十端」, 「筋子一折」などを贈る((2)355・390)
1487	長享1. 7.15	京都随心院領白鳥荘の年貢未進続く[越佐史料3]
	11.28	堯恵, 上野から越後に入る((2)236)
		◇上杉(山内)顕定, 上杉(扇谷)定正と争う。房定の子定昌, 顕定を助ける((2)236)
1488	長享2. 3.24	房定の子定昌, 上野白井で自殺((2)236)。発智景儀殉死する[越佐史料3]
	6.17	連歌師宗祇, 来越し定昌の墓前に詣でる((2)237)
	8.11	房定, 中条定資らを率いて上野白井城にあり, 顕定を助ける((2)236)
	9. 3	房定, 三男房能の祝儀を行う((2)237)
	10. 2	万里集九, 上野から越後に入る。各地に滞在, 翌年5月帰途につく((2)237・352・360・380)
1489	延徳1. 7.22	中条定資, 関東から帰国する[[4]1832]
	7	本庄房長, 房定に反旗を翻す。房定, 中条定次らに帰国を命ず((2)236)
1490	延徳2. 8.11	房定, 中条定資に恩賞として奥山荘黒川分4か所を与える((2)143・247・292)
	12.17	幕府, 性●を米山寺住職とする[越佐史料3]
1491	延徳3. 3.11	前管領細川政元, 越後から越中に入る((2)237)
	6.16	長尾顕景, 浦佐普光寺別当職を安堵する[[5]2597]
	11.28	刈羽郡原の百姓ら, 同村普光寺に寺領を寄進する[[4]2315]
1492	明応1. 3.20	房定, 古志郡栖吉の普濟寺に寺領を寄進する[[3]186]
	8.1	養泰寺閭佐, 頸城郡松苧神社領を売却する[[4]2256]
	9	安国寺正音ら, 京に上り横川景三から字偈をもらう((2)237)
	12. 5	房定, 弥彦神社の戸内を改易する[[5]2882]
		◇長尾能景, 柏崎香積寺に山地を寄進する[[4]2281]
1493	明応2. 3.23	紀伊熊野の御師珍猷, 刈羽郡柏崎などの旦那を売却する[[5]4298]
	8.15	本庄房長, 再び房定と抗争する[[4]1628]
	夏	前権中納言飛鳥井雅康, 房定の招きにより来越する((2)237)
1494	明応3. 9. 5	中条定資, 家督を子息藤資に譲る。房定安堵する[[4]1852]
	9. 8	房定, 魚沼郡の諸氏に関東出陣を命じる[[5]3577]
	9.2	房定, 青芋1駄あたり20文の関銭徴収を定める((2)393)
	10.17	越後守護上杉房定死去。房能嗣ぐ((2)237・537)
1495	明応4. 5.28	上杉房能, 雲洞庵に免船2艘を安堵する((2)728)
	10.15	真誓, 弥彦神社に奉納するため, 刈羽郡大久保の鋳物師に椎鐘を造らせる[[5]2894]
	12.26	古志郡の長尾孝景, 隠居して家督を房景に譲る[[3]220・221]
1496	明応5. 1.20	長尾顕景, 浦佐普光寺の別当職を安堵する[[5]2598]
	(2).28	房能, 耕雲寺領を安堵する[[4]2343]
	(2).	波多岐荘四日町の神宮寺毘沙門天背板を修造する[[5]2493]
	7.1	房能, 本成寺日将死去により後住に日現を認める[[5]2675]
	8.19	房能, 鶴川荘安田氏の知行を安堵する[[4]1552]
	8	弥彦神社に鰐口が奉納される[[5]2814]
1497	明応6. 4.18	中条定資, 奥山荘関郷段銭を納入する[[4]1855]
	4.2	飯尾宗祇, 京をたつて越後に向かう[越佐史料3]
	6.15	頸城郡松苧神社社殿建立される[[5]4364]
	7. 5	房能, 文明末年の検地にに基づき, 古志長尾氏に役銭納入の帳簿(国衙領)を作成させる((2)538)
	7.21	長尾能景, 上野国から曇英慧応を招いて林泉寺を開く((2)437)
	9.26	房能, 古志郡普濟寺を房定未亡人に安堵する[[3]97]
	12.13	水原憲家, 所領を子景家に譲る[[4]1524]
	12.21	夏戸の志駄景義, 所領を子春義に譲渡する[[5]3570・3571]
	12.29	房能, 色部昌長の所領を安堵する[[4]1048・1049]
1498	明応7. 4.	越後商人の京へ送る青芋荷, 近江坂本で差し押さえられる((2)394)

	5.13	房能, 郡司不入を厳格に処理するよう命じる(②271)
	6. 2	房能, 発智・月岡氏の山論を裁可する[[4]1635・1639]
	⑩.10	能景, 磐城八槻神社に過所を与える[[5]3753]
1499	明応8. 7.	能登の中居鑄物師, 能生白山神社の泰平寺の梵鐘を鑄造する(②302・370)
	11.17	越後府内の至徳寺, 十刹位を許容される[越佐史料3]
1500	明応9. 7. 5	飯尾宗祇, 越後に赴くため近衛政家に別れを告げる[越佐史料3]
	7.3	芦名盛高, 小田切氏に小河莊内を恩賞として与える[[4]1650]
	10.16	色部昌長, 段銭を収納する[[4]1050]
1501	文亀1. 4.19	本間直泰, 佐渡一宮慶宮寺に大般若經を納める[[5]3096]
	8. 7	幕府, 京都北野社領鶴川莊・上郷上小島保の年貢納入につき, 守護に督励させる[[5]4235]
	9. 1	連歌師宗長, 在越の飯尾宗祇を訪ねる(②382)
	12.1	越後大地震。余震5～6日続く(②382)
		◇越後国大雪(②382)
1502	文亀2.12. 7	長尾輔景, 幕臣伊勢家領頸城郡松山保の代官職を主張する。この日, 幕府, 伊勢家の支配を認める[[5]3894～3898]
1503	文亀3. 4.16	西国33所順礼・越後国住人同行4人, 大和葛城郡当麻寺に巡礼札を納める(②440)
	5.26	房能, 水原景家の所領の検断不入を承認する(②277・538)
	8. 8	伊達尚宗, 芦名盛高との鉾楯抗争を伝える(②562)
1504	永正1. 7.19	房能, 関東管領上杉顯定を助け上野に出陣する[[5]2827]
	10. 3	房能・顯定, 上杉朝良を武蔵立河原に破る[越佐史料3]
1505	永正2. 1.	佐渡八幡宮神主, 社領の上物を注記する[越佐史料3]
1506	永正3. 8. 1	上野家成, 所領波多岐莊内を子息菊寿丸に譲る[[4]1586]
	9.19	長尾能景, 越中の一方向一揆と戦い, 婦負郡般若野で戦死(②482・549), 水原景家おなじく戦死する[[4]1528]
1507	永正4. 4. 5	越中放生津の英全・河内国永川ら, 頸城郡松茸社に参籠する(②410)
	8. 7	房能, 守護代長尾為景に攻められて頸城郡松之山の天水で自刃する。為景, 上杉定実を守護に擁立(②246・294・540)
	9	本庄時長・色部昌長・竹俣清綱ら, 定実・為景と抗争。阿賀北の国人二派に分かれ, 永正の乱はじまる(②540)
	11.21	定実, 本庄・色部・竹俣氏討伐の功により, 築地資茂・中条藤資に恩賞を与える[[4]1320・1423]
	12.13	定実, 安田但馬守に恩賞を与える[[4]1491]
	12.3	定実, 長尾房景・志駄義春に知行を安堵する[越佐史料3]
1508	永正5. 2.	竹俣・色部氏ら, 芦名盛隆を仲介とし, 上杉顯定に援を求める[[4]1437・1052]
	5.24	色部要害, 落城する(②540)
	6.29	為景, 岩谷城に竹俣清綱を攻める[越佐史料3]
	11. 6	幕府, 定実を越後守護と認め, 為景を守護代とする(②540)
1509	永正6. 1.28	本庄時長没する[越佐史料3]
	7.28	顯定・憲房父子, 越後に出て, 府内を攻め落とす(②540)
	8	定実・為景, 越中に逃れる(②540)
	8	小河莊日野大福寺に聖観音像奉納される[[5]2931]
	9.11	出羽の伊達尚宗, 為景と結び, 越後に侵入する(②541)
1510	永正7. 4.	定実・為景, 越中から佐渡, ついで蒲原津・寺泊に進出, 顯定方に反撃する(②541)
	6.2	顯定, 上田莊長森原で敗死する(②273・542)
1512	永正9. 1.23	長尾平六(俊景), 長尾房長と戦い敗死する[[3]103]
1513	永正10. 4. 8	鏡伝, 薬師如来像を制作し, 古志郡村松円融寺に奉納する[[5]2418]
	7	為景, 定実と対立し春日山に帰城。宇佐美房忠, 定実の意を受け, 反為景工作を行う(②543)
	8. 1	為景, 中条藤資と誓書を交わす(②543)

1514	永正11. 1.16	定実方の八条・石川・飯沼ら, 上田荘六日市で為景方の長尾房長・同房景・中条藤資らと戦い敗死する(②254・544)
	5.26	宇佐見房忠, 頸城郡岩手で為景に敗死する(②544)
	12.16	宝印長快, 頸城郡宝蔵院に石塔を建立する[[5]4389]
1515	永正12. 3.12	山城国北白川の住人渡辺源四郎, 東国一見の旅の途中, 頸城郡松茸社に参籠する(②408)
	3.16	頸城郡白山社宝殿が建立される[[5]4359]
1516	永正13.	◇為景, 越中侵攻。神保・椎名氏らと戦い敗退する(②549)
1517	永正14. 9. 6	為景, 魚沼郡雲洞庵に対して, 免船および脇舟の特権を安堵する(②548)
1518	永正15. 4.24	頸城郡橋立村七所明神社に鰐口が奉納される[[5]4362]
	7.1	能登守護畠山勝王, 為景に越中出陣を求める[[4]1325]
1519	永正16. 2.26	為景, 島津貞忠と和議を結ぶ[[3]163]
	10.13	頸城郡吉尾の法興寺に鰐口が奉納される[[5]4386]
	10	為景, 越中に守護代神保慶宗を攻める(②550)
	12	長尾景行, 長尾房景と五十嵐豊六の五十嵐川漁業相論を仲裁する(②272・555)
1520	永正17. 5.28	古志郡釜沢の満願寺に観音像が奉納される[[5]2420]
	6.13	為景, 越中に出陣し, ついで境川に神保慶宗を攻める(②482・551)
	12.21	為景, 越中新庄で戦い, 神保・遊佐・椎名・土肥氏ら数千人を敗死させる(②551)
1521	大永1. 2.13	為景, 能登守護畠山義総と結ぶ(②550)
	2	為景, 一向宗を禁じる(②482・551)
	4. 3	為景, 越中二上城が包囲され, 房景に出陣を要請する(②551)
	12. 7	畠山尚順, 為景を越中新川郡の守護代に任じる(②551)
		◇伊達植宗, 越後と羽前の国境の大里峠に新道を切り開く(②378)
1523	大永3. 4.24	熊野新宮の山本光頼, 山東郡除・白鳥一円の熊野社旦那を那智山花蔵院に売る[[5]4299]
	6. 3	幕府, 足利義澄十三回忌仏事のため, 越後に国役を賦課する(②545)
1524	大永4. 4.	為景, 高梨氏を援け信濃に出兵する(②549)
	11.23	相模小田原の北条氏綱, 為景にみかん・酒を贈る[[3]78]
1525	大永5.⑪.26	為景, このころから伊勢御師出身の蔵田氏を挙用し, 領内の青芋取りきを管掌させる(②548)
1526	大永6. 1.11	新津景資・豊島資義・千田憲次, 為景に服属を誓う(②557)
	1.16	古志郡●脱荘の円融寺に十二神将奉納される[[5]2417]
	1.18	色部昌長・本庄房景, 為景に服属を誓う(②557)
	1.23	黒川盛重, 為景に服属を誓う(②557)
	5.1	蒲原郡築地庵に石塔建立される[[5]4412]
	9. 5	中条藤資, 為景に服属を誓う[[2]237]
1527	大永7. 3.11	岩船郡諸上寺, 寺領の年貢納帳を作成する[[4]2345]
	6.1	三条西実隆, 越後の青芋公事の納入を為景に督促する(②548)
	8. 2	弥彦神社, 社領を検地する[[5]2799]
	10.19	長尾房景, 自領の段銭を徴収する(②545)
1528	享禄1. 6.12	山吉政久, 為景に服属を誓う[[3]238]
	12.12	為景, 将軍義晴から白傘袋・毛氈鞍覆の格式を許される。また為景の長子道一, 義晴の偏諱を与えられ, 弥六郎晴景と名乗る(②553)
1529	享禄2.12.28	為景, 「公銭勘定帳」を作成する(②545)
1530	享禄3.11. 6	刈羽郡上条城主上杉(上条)定憲, 為景と対立, 享禄の乱はじまる(②558)
1531	享禄4. 1.	越後国人衆, 軍陣壁書を定め, 為景方として連合を形成する(②558)
	8.1	山吉政久, 大崎保の御料所年貢の進納について誓約する[[3]240]
	8.2	本庄房長・色部勝長・鮎川清長・小河長基, 為景方として連携を誓う(②559)
		◇魚沼郡下船戸に経筒が埋納される[[5]2513]

1532	天文1. 5.10	佐渡畑野熊野社, 神田諸役目録を作成する[[5]3090]
1533	天文2.	◇上杉(上条)定憲, 再び挙兵, 天文の乱はじまる((2)560)
	6.24	為景, 本成寺衆に恩賞を与える[[5]2688]
	9.26	上条方の松郷・秋山・志駄氏ら, 北条で安田景元と戦う((2)560)
		◇新津堰一の堰, 沢田半左衛門により開発される((3)452)
1534	天文3. 5.21	北条輔広・安田景元, 上条方と刈羽郡納下で戦う((2)560)
1535	天文4. 1.	上条方の長尾房長, 魚沼郡下倉城を攻める((2)560)
	6.13	為景, 宇佐美定満の琵琶島城を攻める[越佐史料3]
	6	上条定憲, 色部勝長に蒲原津を守らせる[[5]3471]
	9.16	上条方の阿賀北国人衆, 羽前砂越氏に援助を頼む[[5]3627]
	9	長尾房長の兵, 蔵王堂を攻める[越佐史料3]
1536	天文5. 8. 3	為景, 家督を晴景に譲る((2)561)
1538	天文7.	◇定実, 養子に奥州伊達植宗の二子時宗丸(実元)を迎えようとはかり, 阿賀北衆で抗争がおこる((2)562~564)
1539	天文8.11.21	色部勝長, 定実の養子に反対する((2)562)
		◇本庄房長, 中条藤資・伊達氏に敗れ, 羽前大宝寺に逃れる((2)564)。房長の弟小河長資, 本庄城を奪う[越佐史料3]
1540	天文9. 6.20	伊達晴宗, 父植宗を幽閉し, 時宗丸の越後入国を阻止する。伊達氏天文の乱はじまる((2)564)
	9.27	晴景, 後奈良天皇から「敵追討」の綸旨を与えられる((2)567)
	9	阿賀北衆, 一致して中条氏を攻める((2)564)
1541	天文10. 8. 2	小河長資・鮎川清長・色部勝長など小泉荘内の諸将, 誓紙を取り交わし, 連携を誓う((2)565)
1542	天文11. 4. 5	定実, 引退を希望し, 起請文を晴景に差し出す((2)565)
	12.24	為景, 没する(天文5年説あり)((2)562)
		◇佐渡鶴子銀山が開かれる((2)762(3)523)
1543	天文12. 3.20	色部家中, 勝長に起請文を差し出す[[4]1089]
		◇晴景, 景虎(謙信)を三条城に, ついで栃尾城に入れ, 中郡の平定にあたらせる((2)567)
1544	天文13. 4.20	晴景, 後奈良天皇から「国中静謐」の綸旨を与えられる[[3]776]
	10.1	定実, 安田長秀に知行地を恩賞として与える((2)562)
1545	天文14.10.	黒田秀忠, 晴景に叛す。景虎, 上郡に帰り, 秀忠と戦う((2)568)
1546	天文15. 2.28	黒田秀忠, 景虎に攻められ敗死する((2)568)
1548	天文17.12.30	景虎, 晴景と対立する。上杉定実の調停により, この日, 景虎, 春日山に入城し家督を継ぐ((2)568)
1549	天文18. 2.16	景虎, 先例により頸城郡瑞麟寺領を郡司不入とする((2)569)
	4.27	景虎, 府内大橋の橋銭についての掟を定める((2)373・483・578)
1550	天文19. 2.26	越後守護上杉定実没する。継嗣なく, 越後上杉氏断絶する((2)569)
	2.28	足利義晴, 景虎に白傘袋, 毛氈鞍覆の使用を許す。景虎, 名実ともに越後国主の地位につく((2)569)
	5.13	斎藤朝信, 刈羽郡菊尾寺の寺領を安堵し, 寺社役を勤めさせる[[4]2282]
	6. 5	北条高広, 佐橋荘(北条)諏訪大明神の社殿を造営する[越佐史料4]
	8. 5	北条高広, 北条八幡宮の社殿を造営する[[4]2280]
	12. 3	飯田与七郎, 頸城郡夷守郷上田荘の公田潤役代を納める[[5]3960]
	12	坂戸城主長尾政景, 景虎と対立して抗争する((2)569)
1551	天文20. 4. 4	本間高季, 佐渡宿根木の彦衛門に舟宿をあずげる[[5]3156]
	6.2	景虎, 大串某を三ヶ津(蒲原・沼垂・新潟)横目代官職とし, 府内に在勤させる((2)578)
	8. 1	長尾政景, 景虎に和を乞う。景虎これを許す((2)570)
	8. 8	本庄繁長, 叔父小河長資を攻撃して自殺させる((2)566)
	10	鮎川清長, 本庄繁長と抗争する。色部勝長ら仲介して, 小河長資遺族を復帰させ, 繁長・清長・勝長, 互いに誓書を交換する((2)566)

1552	天文21. 1.10	関東管領上杉憲政、北条氏康に圧迫されて越後に逃れ、景虎のもとに身を寄せる(②571・592・597)
	5.26	景虎、従五位下弾正少弼となる(②597)
	6.18	奉行人山吉政応、中条・黒川両氏の境界紛争の調停を色部勝長に依頼する(②566)
	7.16	景虎、蒲原郡本成寺の寺領を安堵し、禁制を定める[[5]2678・2682]
	12. 8	景虎、中条・黒川間の紛争調停のため、山吉孫四郎を色部勝長のもとに派遣する[[4]1060]
1553	天文22. 2.10	前越後守護代長尾晴景没する[越佐史料4]
	4.2	天台座主弁尊法親王、景虎に延暦寺大講堂造営の費用を求める[[3]134・135]
	8	北信濃の村上義晴・高梨政頼・井上昌満・須田満国・栗田永寿ら、武田晴信に攻められ、景虎に援を求める。景虎、信濃川中島に兵を出し戦う(第一次)(②593)
	秋	景虎、上洛して参内し、天盃・御剣および越後と隣国平定を賞する綸旨を与えられ、後奈良天皇に忠誠を誓う(②597)
	11.13	景虎、本願寺証如に貢物を贈り、一向宗に対する政策を転換する、ついで紀伊高野山に参詣する(②484・598)
	12. 8	景虎、前大徳寺徹岫宗九から衣鉢法号、三帰五戒を受け宗心と称する[越佐史料4]
	12.17	上野家成、魚沼郡波多岐荘上野村の京都御要脚公田段銭を納める(②570)[[4]1598]
	12.下	景虎、京都から帰国の途につく[[4]1596]
1554	天文23. 3.13	景虎、信濃笠原本誓寺の超賢に越後移住を勧める[[4]2203]
	3.16	景虎、大熊朝秀・本庄実乃に上野家成と下平修理の紛争の調停にあたらせる(②570)
	3	景虎、隠居を表明する[[4]1591]
	9.2	北条高広、祖父輔広の仏事執行のため、北条専称寺所領内の陣夫を免除する[[4]2303・2304]
	10.14	景虎、黒川清実の所領上条の地を郡司不入とする(②578)
1555	弘治1. 1.14	景虎、上条城に援軍を送り、武田晴信に通じた北条高広にあたらせる[[4]1568]
	2	大熊朝秀・直江実綱・本庄実乃ら、刈羽郡に出陣する[[4]1571]
	4.1	景虎、新寄進として府中称念寺と末寺の寺領を郡司不入とし、諸役を免除する[[4]2136]
	4.25	景虎、武田晴信と信濃旭山要害で戦う[[5]3582]
	7.19	景虎、武田晴信と信濃川中島で戦う(第二次)(②594)
	⑩.	景虎、信濃善光寺御堂本尊を春日山城下に移し、善光寺を創る[越佐史料4]
	11	景虎、長慶寺の天室光育に中条・黒川の境界紛争を調停させる[[4]1905・1932]
1556	弘治2. 6.28	景虎、天室光育に引退の意向を告げる(②573)
	8.17	政景、景虎の引退を諫止する。景虎、意を翻し、家臣一同連署して起請文を提出する(②573)
	8	大熊朝秀、武田晴信と通じて越中に走る(②485)。会津芦名盛氏、晴信と結び、小河荘小田切安芸守を越後に侵入させる[[5]3755]
	8.23	上野家成ら、頸城郡駒帰で大熊朝秀を破る。朝秀、甲斐へ落ちのびる(②573)
	12.22	阿佐美彦六、頸城郡真砂保の土地台帳を作成する[[5]2762]
1557	弘治3. 1.20	景虎、武田晴信滅亡・信濃平定の願文を信濃更科八幡宮に納める[越佐史料4]
	2	武田晴信、信濃葛山城を攻略する[[4]2044]
	3.1	景虎、信濃に出陣し、色部勝長に参陣を命じる[[4]1058・2044 [5]4156]
	4. 7	景虎、刈羽専念寺領を郡司不入とする[[4]2309]

	4.21	景虎, 信濃善光寺平に着陣し, 色部勝長の参陣を促す[[4]1059]
	5.1	景虎, 信濃小菅山元隆寺に戦勝の願文を納める[越佐史料4]
	8.29	景虎, 晴信と信濃上野原に戦う(第三次)(②594)
	10.18	景虎, 涌光寺領の頸城郡夷守郷榎井保の地を広泰寺に寄進し, 郡司不入・諸役免許とする[[5]3413]
1558	永禄1.⑥.14	本庄繁長, 色部勝長と協力を誓う[[4]1119]
		◇景虎, 一向宗本誓寺超賢を加賀から招き, 春日山近く佐内に寺地を与える(②485)
1559	永禄2. 3. 2	景虎, 黒川孫五郎の所領を郡司不入とする[越佐史料4]
	4. 3	景虎, 5000人の家臣を従え, 上洛の途につく(②598)
	5. 1	景虎, 参内して天盃・御劔を与えられる(②598)
	5	この月, 晴信の軍勢越後に侵入する(②594)
	6.26	足利義輝, 景虎に塗輿など格式を許し, 関東管領上杉憲政の補佐と信濃諸将の保護を求める(②599)
	6.29	景虎, 近江坂本で腫物を患う。義輝, 景虎に鉄砲と玉薬調合書を贈る(②586・599)
	6	関白近衛前嗣, 越後に下ろうとし景虎と誓書を交わす[[3]969・970・974・976・987・989～991]
	9	晴信, 再び越後に侵入する(②594)
	10～11.	景虎, 京都から帰国する。諸将太刀を贈り, これを祝う(②572・583)
1560	永禄3. 3.26	景虎, 晴信と結んだ神保長職を討つため, 越中に出陣する(②613)
	5. 9	栃尾衆の大関定憲・金井修理亮ら, 本庄玖介・宇野左馬允に軍役・要害普請などの精励を誓う(②583)
	5.13	景虎, 越後府中の住人に5か年間諸役・地子銭を免除する(②391・406・578・579)
	5	景虎, 居多神社へ制札を与える[[4]2126]
	6	景虎, 内裏修理料として越後の御料所を献納する[[3]773]
	7. 2	権大納言広橋国光, 勅を奉じて, 速水有益を越後に派遣し, 景虎に金欄と引合を下賜する[[3]773]
	8.25	景虎, 関東出陣にあたり, 留守中の掟を定め, 検見3人を置き, 蔵田五郎左衛門に府内を監察させる(②580・583・600)
	8.29	景虎, 上野に出陣する。厩橋で越年(②600)
	9.19	近衛前嗣, 西洞院時秀を従えて越後に来る。景虎, 府内至徳寺を宿舎にあてる[越佐史料4]
1561	永禄4.1～3.	景虎, 「関東幕注文」を作成。上野・下野など7か国255人の反北条方諸将を結集する(②601)
	2.25	景虎, 蔵田五郎左衛門に府内の火の用心を命じる(②580)
	3.11	景虎, 上田荘・妻有荘・藪神の水損に対し, 徳政を実施する(②581)
	3	景虎, 上杉憲政を奉じ, 越後・関東の将士を率いて小田原城を攻める(②601)
	3	景虎, 刈羽郡柿崎町の問屋に制札を発す(②370・373)
	③.16	景虎, 憲政から上杉氏の名跡を譲られ, 関東管領となる。名を政虎と改め, 鎌倉鶴岡八幡宮でその儀式を行う(②569・601)
	4. 5	上杉政虎, 府中の住宅を板屋にすること命じる(②579)
	4.27	政虎, 蔵田五郎左衛門に, 府内・御蔵の警備を命じる[[4]2139]
	5. 1	政虎, 鎌倉で能楽を催す[[4]2139]
	6. 2	義輝, 僧一舟を政虎に遣わし戦勝を賀す[[3]952]
	6.28	政虎, 厩橋を発し春日山に向かう[越佐史料4]
	8.29	政虎, 会津芦名氏・羽前大宝寺氏の応援を得て, 斎藤朝信・山本寺定長・蔵田五郎左衛門を越中に派遣する(②614)
	9.1	政虎, 信玄と信濃川中島で戦う(第四次)(②596)
	9.13	政虎, 色部勝長・安田長秀ら家臣の多数に感状を発給する(②596)
	11	政虎, 下総古河城にいる近衛前嗣から救援要請を受け, 関東に出陣する(②602)
	12	政虎, 足利義輝の偏諱を受けて輝虎と改名する(②569)

1562	永禄5. 1.26	上杉輝虎, 関東往来者の坂戸城大手の通行を止め、直路を通行させる[[3]267]
	2.下	輝虎, 近衛前嗣・上杉憲政を下総古河城から上野厩橋城に迎える[越佐史料4]
	3.15	輝虎, 金津新兵衛尉らに春日山城・府内・善光寺門前を警備させる[[5]3938]
	4	輝虎, 憲政・前嗣とともに越後へ帰る[越佐史料4]
	5. 3	輝虎, 古志郡の椿沢寺領を守護不入とする[[5]2714]
	7.下	近衛前嗣, 越後から京都に帰る((2)602)
	9.13	輝虎, 魚沼郡の上弥彦神社領を郡司不入地とし, 末社に土地を寄進する[[5]2450]
	12.18	輝虎, 深雪をおして上野沼田に入る[[5]3188]
	12.2	安房の里見義堯のもとに身を寄せた関東公方足利藤氏, 輝虎の出陣を聞き, 古河城の回復をはからせる[[5]3737]
1563	永禄6. 7.16	色部勝長, 古色部・荒川保の段銭を徴収する[[4]1067]
	7.18	輝虎, 刈羽飯塚八幡宮別当極楽寺および出雲崎の薬師寺に命じて, 北条氏康・武田信玄を調伏させる[[4]2312 [5]2646]
	8.18	比叡山の正覚坊重盛, 輝虎のために祈祷し巻数を送る[[3]674]
	8.27	天台座主堯尊法親王, 延暦寺三院の大衆に, 輝虎の武運長久を祈らせる[[3]557]
	12	色部勝長と平賀重資, 小旗のことで争う[[4]1113~1115・1117・1190・1694]
	12	刈羽郡鯨波の妙智寺, 輝虎から制札を得る[[5]4387]
	(12).	輝虎, 関東に出陣し, 下野佐野城を攻撃する[越佐史料4]
1564	永禄7. 2.17	輝虎, 佐野昌綱を攻め, 長尾房丸を昌綱の養子とすることを誓約させる[[4]1054・1607 [5]2478・3774・3861・3908・3982]
	2.29	輝虎, 越後の留守将長尾政景に諸普請および越中への計策を指示する[[3]871]
	3.1	足利義輝, 大覚寺門跡義俊を越後に遣わし, 北条氏康・武田信玄との講和を勧める[[3]954・越佐史料4]
	4. 9	輝虎, 越後に帰る[越佐史料4]
	4.2	輝虎, 柏崎町の再興のため制札を出す((2)359・368・391・580)
	5.13	輝虎, 刈羽郡飯塚八幡宮に対し, 信玄・氏康滅亡の五壇護摩を要請する[[4]2313]
	5	信玄, 芦名盛氏と連携し信濃野尻島に侵入, 盛氏も越後菅名荘に侵入する[[4]1066・越佐史料4]
	6.24	輝虎, 弥彦神社に願文を納め信玄・氏康の滅亡と越中平定を祈る((2)614)
	7. 2	輝虎, 朝廷に永禄5年分の御料所進納分として黄金を献じる[越佐史料4]
	7. 5	長尾政景, 野尻池で溺死する((2)572)
	7.29	飛騨の諸将相争い, 江馬輝盛, 輝虎に援を求める。輝虎, 越中の諸将に輝盛を助けさせ, 信濃に入り信玄を牽制する[越佐史料4]
	8. 1	輝虎, 信玄の撃滅を信濃更科八幡宮に祈る[[3]259]
	8. 3	輝虎, 信濃川中島に出陣する[[5]3257]
	8. 4	足利義輝, 上杉・北条間の和睦を勧めるが, 輝虎これを断る[[5]3332]
	8.24	輝虎, 蔵田五郎左衛門に府内・春日の火の用心を命ずる[[4]2116]
	10. 1	輝虎, 信濃飯山城を修理して越後に帰る[越佐史料4]
	10.24	輝虎, 下野佐野昌綱を討つため上野沼田城に入る[越佐史料4]
	10.27	輝虎, 佐野昌綱を破る[越佐史料4]
	11. 7	織田信長, 子息を輝虎の養子とすることを承諾する(越佐史料は元亀3年とする。実現せず)[[3]382]
1565	永禄8. 2.24	輝虎, 関東に出陣する[[5]4022・越佐史料4]
	3.23	足利義輝, 再度上杉・北条の和を勧める[[3]763・953]
	3.27	本願寺, 輝虎を共通の敵として信玄と盟約を結ぶ((2)614)

	6.16	越前朝倉景連ら、直江実綱に京都の情勢を伝え、輝虎の加賀出陣を求める[[3]400・401]
	6.24	大覚寺門跡義俊、輝虎に足利義輝の暗殺を報じ、来援を求める[[5]3740]
	7.17	輝虎、河田長親を上野沼田城に移らせる[[4]2265]
	7.24	輝虎、自ら信濃出陣の意を示して信玄を牽制する(②597)
	8. 5	一乗院覚慶(足利義昭)、輝虎に足利氏の再興を委嘱する[[3]759・836[4]2127 [5]3738]
	11.21	輝虎、魚沼郡浅貝に着陣する[[5]3841]
1566	永禄9. 2.21	輝虎、印判の用例を指令する[[5]3683]
	3.1	足利義昭、輝虎に北条氏と和し、上洛することを求める[[3]834・835・838・855 [4]1063・1064]
	3	輝虎、千葉胤富の属城下総臼井城の原胤貞を攻め、千葉・北条の軍と戦う[[3]706・越佐史料4]
	5. 9	輝虎、北条氏康との和平と京都・鎌倉両公方の擁立実現を神仏に祈る(②604)
	5.13	輝虎、柏崎町に諸役を免除し、発展をはかる[[3]588]
	7. 1	足利義昭、輝虎に北条氏との和睦を勧める[[5]3703]
	9.13	義昭、大覚寺義俊に上杉・北条間を調停させ、輝虎の参陣を求める[[3]955]
	9.27	輝虎、常陸佐竹義重との旧交復活を、江戸重通・太田資正らに斡旋させる[[3]1017・越佐史料4]
	12.2	輝虎、上野沼田城に入り、佐竹義重などに参陣を促す[[5]3296・越佐史料4]
1567	永禄10. 2.24	義昭、輝虎に越後下向の意向を伝える[[3]956・957・1012]
	5	輝虎、佐野城を色部・吉江・萩原などに守らせる(②605)
	7. 1	義昭、輝虎に兵糧を求め、甲・相両国と和睦し、上洛することを求める[[3]389・402・958・959 [5]3314]
	10	氏康・信玄、上野厩橋城を攻め、輝虎も対抗して出陣する(②605)
1568	永禄11. 1.	信玄、輝虎の上野沼田在陣の隙をつき、本庄繁長と結ぶ(②574・615)
	3.25	輝虎、本庄繁長の離反を聞き、越中放生津から急ぎ帰国する(②615)
	4	今川氏真、越・相・甲の和睦の斡旋を申し入れる[[3]565]
	5. 4	輝虎、柿崎景家・直江政綱などに本庄繁長を攻撃させ、近隣の諸将の協力を求める[[4]2324]
	7.29	信長、輝虎に信玄と和睦し、天下統一に協力することを望む[[5]3438]
	8.1	輝虎、信玄の信濃長沼在陣に備え、養子顕景(景勝)らを頸城郡関山城に派遣する(②584・615)
	9. 8	本庄方の羽前大宝寺義増、輝虎に和を求める[[3]398]
	10.13	信玄、兵糧を本庄繁長に贈り、明春の戦略を相談する[[5]3592]
	11. 7	輝虎、本庄城を攻囲する(②574・615)
	11.3	中条藤資、石塚玄蕃允の裏切りを輝虎に報じる。輝虎、藤資の忠節をほめ、誓書を送る(②577)
	12. 9	北条氏康、信玄と対立し、輝虎との和睦を望む[[5]3298・3461・3462・越佐史料4]
	12.27	常陸佐竹義重、信玄の駿府攻略を輝虎に伝え、この機に乗じて関東への出陣を勧める(②606)
	12.28	芦名盛氏・伊達輝宗、輝虎と本庄繁長の間の講和を仲介する[[5]3666]
1569	永禄12. 1. 7	氏康二男北条氏照、再び輝虎に講和を求める[[3]381・395・396・731]
	1.13	大川長秀、大宝寺義増の兵とともに出羽藤懸城を攻める[[3]392・393]
	1	三瀨政長・大川長秀、出羽藤懸城を攻め、敗退する[[4]2048]

	1	輝虎、北条氏との講和を決意する[[4]2048]
	2. 2	北条氏康の臣遠山康光・康英父子、越相講和の条件を上野金山城の由良成繁と協議する[[3]493]
	2. 6	輝虎、地下人に対し、鎧・縄・鉈・鍬など参陣の際の装備基準を示す(②584)
	2. 6	氏康・氏政父子、使僧天用院を上野沼田に送り、越相講和を進めさせる[[3]413・429]
	2. 8	足利義昭、智光院頼慶を輝虎に遣して、信長とともに越・甲の和睦を斡旋する[[3]386・962]
	2.晦	飛騨三木良頼、輝虎と越中椎名康胤との調停をはかる[[5]3704]
	3.14	輝虎、北条氏との同盟(越相同盟)を承諾する(②574)
	3.26	本庄繁長、伊達輝宗・芦名盛氏を通じて、輝虎に和を求める(②574・615)
	4. 2	輝虎、本庄城から府内に帰る[越佐史料4]
	4. 7	義昭・信長、再び輝虎に信玄との和睦を勧める[[3]383・963・964]
	4.23	輝虎、山吉豊守に北条氏の臣遠山康光と武蔵松山城の引渡しなどを協議させる[[3]579・1014]
	4.27	氏康、古河公方に足利義氏を推し、輝虎に上野を分与する(②607・608)
	⑤. 3	輝虎、氏康の使僧天用院と府内で会見する[[5]2836・3319・4132]
	⑤.20	輝虎、伊勢大神宮遷宮費のため棟別銭を越後国内に課す[[5]4197]
	6. 9	氏康父子、輝虎に氏政の子国増丸を養子とすることを誓約。越相同盟成立する(②608)
	6.1	北条氏政、輝虎に北条高広の赦免を求め、輝虎、高広に氏政を助けさせる[越佐史料4]
	8	本庄宗綏・山吉豊守・新発田忠敦・直江景綱ら、中条・黒川の紛争の調停にあたる(②577)
	8.2	輝虎、越中に入り、新庄・金山などを陥しいれる。また留守の春日山城に地下鎧を集めるよう命じる(②590・615)
	10.上	越中神保覚広の家臣、反逆する。輝虎、これを討つため越中に出陣する[[3]682・越佐史料4]
	10.16	北条氏政、輝虎への養子を弟の三郎に変更する(②610)
	10.27	輝虎、越中から春日山に帰陣する(②615)
	11.2	輝虎、上野沼田に着陣、関東諸将の参陣を促す[[3]567・698 [5]3665・4078・越佐史料4]
1570	元亀1. 1.11	輝虎、氏康に下野佐野城攻撃を伝え、武蔵岩槻城の還付を求める(②610)
	2.18	氏康・氏政、誓書を輝虎に送り、武蔵岩槻の返還と養子の出立を誓う(②610)
	3. 5	輝虎、氏康・氏政に、養子には姪を嫁すことを誓約する[越佐史料5]
	4.25	輝虎、養子三郎に景虎と名乗らせ、姪(長尾政景の娘)を妻とさせる(②611・631)
	6.24	出羽大宝寺義氏、大川長秀と戦い、本庄繁長を介して輝虎に調停を依頼する[[5]3628・3629・越佐史料5]
	7	足利義昭、越・甲講和を勧める[[4]2209]
	8. 4	信玄が伊豆に侵入したため、北条氏政、輝虎に後詰を依頼する[[5]4076]
	8.22	輝虎、徳川家康と結ぶ[[5]4323]
	9.2	輝虎、信玄の上野出陣に対抗して、越山し、このとき中風を発する[[5]3389]
	9	本願寺と織田信長の間に、石山合戦はじまる(②486)
	10. 8	家康、輝虎に信玄と絶ち、信長との同盟を勧める[[3]380・391・910・933]
	12	輝虎、出家し謙信を名乗る(②569)

1571	元亀2. 1.	信玄、駿河深沢城の北条綱成を攻める。氏政、上杉謙信に越山を要請する[[5]4092・越佐史料5]
	2.27	謙信、長尾顕景を代理として上野沼田へ派遣する[[5]3980・3987・越佐史料5]
	3	謙信、越中に出陣し椎名康胤を攻める。富山城以下数城を陥れ、春日山に帰る((2)615)
	4.17	謙信、伝馬宿送の印判を定める[[5]2816]
	4.28	謙信、氏政・信玄の関東出陣を聞き、栗林政頼に關越国境の警戒を命じる[[5]3971]
	5. 2	謙信、大石芳綱・栗林政頼に關越国境の魚沼郡浅貝に寄居城を築かせる[[5]3985]
	8. 1	謙信、家康の提携申入れを承諾し、誓書を交換する[[5]4191]
	8. 6	謙信、色部顕長に恩賞として本庄繁長と同じ城中座次を与える[[4]1683]
1572	元亀3. 1.15	北条氏政、謙信との同盟を破棄し、信玄と結ぶ[越佐史料5]
	①. 6	謙信、上野石倉城を陥れ、この日、信玄と上野厩橋付近の利根川に対陣する[[5]2555・3768]
	2.16	謙信、北条軍の上野厩橋占拠に対抗し、上田衆を上野沼田城へ派遣する[[5]3407]
	4.16	織田信長、越・甲・相の和議を斡旋する[[5]4247]
	5.24	鯨坂長実ら、謙信に加賀の一向一揆と越中椎名康胤の連携を報じ、出兵を求める[[3]403]
	8.18	謙信、越中新庄に出陣し、富山城の一向一揆を攻める[[5]2834]
	11.2	信長、謙信とともに信玄を攻撃することを誓う((2)616)